

「余韻／響き ～ 日本の写真作家3人展」

Yoin / Hibiki (Remaining Sound / Reverbrating Echo): Works of Three Japanese Photographers

開催のご案内

会場： Gallery Hyun（韓国ソウル市） <http://www.hyungallery.com/>

会期： 2009年10月24日（土）～11月8日（日）

※オープニングレセプション：10月24日（土） 17:00～

・ 舞踏と音楽による即興パフォーマンス（出演：零境（だけい）ほか）

・ 出品作家によるアーティストトーク

企画： HRD FINE ART <http://www.hrdfineart.com/>

【展覧会概要】

「余韻／響き」展は、日本の若手美術作家3人の作品を通して、現代の写真表現の豊かな可能性の地平を再発見しようとする試みです。写真という、近代のユニバーサルな表現メディアにおいて、鑑賞者の心のうちに余韻を響かせるという日本的な芸術表現の特質を見出し、写真を新たな視点から捉え直すことを目指しています。「余韻」「響き」というキーワードを通して、現代の写真表現を新たな文脈から再考します。

古くは絵巻物、また近世の琳派の絵画など、伝統的に日本の絵画は「余白」や「省略」を巧みに生かした空間表現をひとつの特徴として発展してきました。すべてを詳細かつ説明的に描写するのではなく、見る者の想像力が入り込める隙間や空間を残すことにより、日本の伝統絵画はより豊潤な世界を提示しようとしていました。

世界最短の詩型といわれる「俳句」も、絵画における「省略」や「余白」と通じる美意識を特徴としています。「五・七・五」という切り詰められた音数の制限は、かえって鑑賞者の中に豊かなイメージを広げていく仕掛けを備えています。簡潔さを極めた言葉の外側に広がる情感の響きこそが、俳句鑑賞の特質と言えます。

「響き」や「余韻」を味わおうとするこのような美的感覚は、日本の現代美術のフィールドにおいても有効性を失ってはいませんが、とりわけ写真というメディアにおいて、特に興味深いかたちで継承され、展開されています。写真本来の主観を排した写実性は、俳句が標榜する「写生」の態度とも重なり、また世界をあるフレームで切り取るという行為は、17音の音律の中に言葉を収めるという俳句のルールにも通じるものがあります。

こうした制約を逆に積極的に生かし、広がりのあるイメージを響かせるような表現の可能性を意識し、追求している写真作家のうち、この展覧会では南條敏之、岡聖子、田中朝子という若手作家3人の作品を紹介します。彼らが生み出す作品は、それぞれ手法や方法論は異なりますが、日本の伝統的な美意識と写真という表現メディアとの関係性を探るうえで多くの示唆を与えてくれるでしょう。

本展は、アートコンサルティングオフィス HRD FINE ART の企画により、韓国ソウルの Gallery Hyun にて開催いたします。何卒ご高覧賜り、またご喧伝いただけますよう、よろしくお申し込み申し上げます。

お問い合わせ： HRD FINE ART（エイチアールディー・ファインアート）

〒571-0043 大阪府門真市桑才新町 28-1-301

<http://www.hrdfineart.com/> / info@hrdfineart.com

【作家紹介／略歴】

南條敏之

南條敏之は近年一貫して、水面に反射した太陽光を捉えた作品を発表しています。太陽の存在は反射光として暗示されるにとどまり、光源そのものを画面から省略することによって、見るものの視線と意識は画面の外側へと導かれていきます。光の痕跡を媒介として、切り取られた画像の外部への回路が開かれ、「見る」という経験が拡張されていくのです。長時間露光という撮影テクニックは、そこに存在した光を固定化し封じ込めているように見えながら、実は時間と空間を無限に解き放つ力を持っているようです。南條の写真が指し示すのは、目に見える世界の一場面を切り取った映像というよりも、時間も空間も超越した、世界のあり方そのものを暗示する「比喩」のようなものと言えるのかもしれない。

1972 東京生まれ

主な個展

- 1999 「EXIT」 Hokari Fine Art Gallery (東京)
- 2000 「ある青」 Hokari Fine Art Gallery (東京)
- 2002 「水面の太陽」 Gallery Pirka (東京)
- 2006 「suns」 Exhibit Live & Moris (東京)
- 2007 「suns」 Masuii R.D.R Gallery (埼玉)
- 2008 「suns」 Gallery Grand Cafe (東京)

主なグループ展

- 1999 「Hokari Collection 1999」 Hokari Fine Art Gallery (東京)
「Jin 'Photo' Session 2000」 Gallery Jin (東京)
「写真の地層 II STRATOFOTOGRAFICO II」世田谷美術館区民ギャラリー(東京)
- 2001 「Jin Session Small Works 2001」 Gallery Jin (東京)
「Jin Session 2001 Vol. 3」 Gallery Jin (東京)
「写真の地層 III STRATOFOTOGRAFICO III」世田谷美術館区民ギャラリー
- 2004 「cresc. photo exhibition」ギャラリー唄(東京)
「百人の写真展」 Gallery Ississ (京都)
「Element / vol. 2」 Exhibit Live & Moris (東京)
- 2006 「Experimental Vision II」 San-Ai Gallery (東京)
- 2007 「面と肌理」 Exhibit Live & Moris (東京)
- 2008 「Internal - 形象 -」 San-Ai Gallery (東京)
「Blue Dot Asia」 Seoul Arts Center (ソウル)
「Let There Be Light」 ギャラリーハンギル (パジュ)
- 2008-09 「Floating Odyssey 2008」 Waterloo Gallery (ロンドン) / Exhibit Live & Moris (東京) / Book House Art Space (パジュ)

岡聖子

岡聖子は、これといった特徴も見所もない風景や事物を、ある定型的な構図の中に提示した作品を継続して発表してきました。岡の写真からは、作家の感情や思い入れを読み取ることはできませんが、ドライで無機質だからこそ、「分析」や「読解」ではない「見る」という直感的で純粋な行為を引き出すことに成功しています。見る者は、自分が今までに見たことのある映像や記憶を次第にそこに重ね合わせ、脚色、修飾を試みます。水を吸い込む乾いた砂地のようなヴォイド性が、逆に岡の写真に一種の官能性を与えていると言えるでしょう。

今回展示される「Her/story」のシリーズでは、無関係な2つの場所の写真を並列に提示されています。相互のイメージの響き合いの中に全く別の感覚の広がりを招き入れる試みと言えるでしょう。

1979 大阪生まれ
2006 フロリダ大学大学院芸術写真科修了

主な個展

2005 「Two Ambiguities」 Focus Gallery (フロリダ)
2007 「Vera Icona」 AD&A ギャラリー (大阪)
2008 「A Line of Subtraction」 ギャラリー・ウー (大阪)

主なグループ展

2003 Cedar Key Arts Center (フロリダ)
「BFA Exhibition」 Trisolini Art Gallery (オハイオ州アセンズ)
2006 Thomas Center Galleries (フロリダ)
「Cross-Foldings」 フロリダ大学ギャラリー (フロリダ)
「Fine Arts College Council's Juried Arts Exhibition」 フロリダ大学ギャラリー (フロリダ)
2007 「Trick of the Light」 Manifest Gallery (シンシナティ)
「The Select」 Thomas Center Galleries (フロリダ)
「Tous Photographes!」 Musee de l'Elysee (ローザンヌ/スイス)
2008 「Einladung zur Eröffnung der Ausstellung」 Atelier Rondo (グラーツ/オーストリア)
「Blue Dot Asia」 Seoul Arts Center (ソウル)
「ビデオ・ランデブー：映像の現在」 大阪市立近代美術館 (大阪)
2009 「The Surface of Windows」 京都市国際交流協会 (京都)
「P&E」 アートコートギャラリー (大阪)
「神戸アートコレクション 2009」 神戸ファッション美術館 (神戸)

受賞/グラント/レジデンス

2006 「Outstanding Artistic Achievement Award」 Thomas Center (フロリダ)
「Merit Award」 フロリダ大学ギャラリー (フロリダ)
2008 スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団 文化助成
「National Workshop for Arts and Crafts Residence」 (コペンハーゲン)
「Atelier Rondo Art Residence」 (グラーツ/オーストリア)

田中朝子

田中朝子は、文房具や日用品など、身の回りのありふれたモノたちを独特の角度から捉え、脱力したユーモアのセンスで包み込んで提示します。普段、格別に目を留め注意を向けることのないものも、田中の作品の中では新たな光を当てられ、新鮮なイメージとして立ち上がってきます。時として俳句の諧謔、「軽み」にも似た言葉遊びや連想ゲーム的な仕掛けも施された作品により、田中はイメージの解体と再構築を試みます。そして、そこに意図されているのは、事物に対する新しい意味づけやメッセージではなく、「おかしみ」を含んだやわらかな情感、さざ波のような余韻を引き出すことなのです。

1972 大阪生まれ
2003 京都市立芸術大学大学院後期課程修了

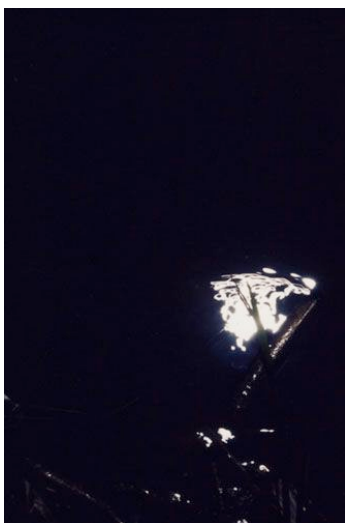
主な個展

2000 「イメージの虫干し」 ギャラリーアーティスロング（京都）
2001 「nomart project 01」 ノマル・プロジェクトスペースキューブ&ロフト（大阪）
2002 O ギャラリーeyes（大阪）
2003 「boox」 ノマル・プロジェクトスペースキューブ&ロフト（大阪）
ベイスギャラリー（東京）
2005 「b [flæt]」 ノマル・プロジェクトスペースキューブ&ロフト（大阪）
2007 「pool」 ノマル・プロジェクトスペースキューブ&ロフト（大阪）
2009 「index」 ギャラリーX（東京）

主なグループ展

1998 「映像考／・・・」 神戸アートビレッジセンター（神戸）
2000 「湧出の源泉」 O ギャラリーeyes（大阪）
2001 「印象の泉／対象の揮発」 O ギャラリー（東京）
2002 「SOLITUDE」 O ギャラリー（東京）
2004 「Multiples」 ノマル・プロジェクトスペースキューブ&ロフト（大阪）
「写/版-ふたつの距離」 ギャラリー惶（東京）
2005 「photographics」 CASO（大阪）
「Independent—イメージと形式—2005」 愛知県美術館ギャラリー（名古屋）
2006 「素材：本」 ノマル・プロジェクトスペースキューブ&ロフト（大阪）
2007 「版という距離」 京都芸術センター（京都）
2008 「風～明日への軌跡」 ギャラリー恵風（京都）

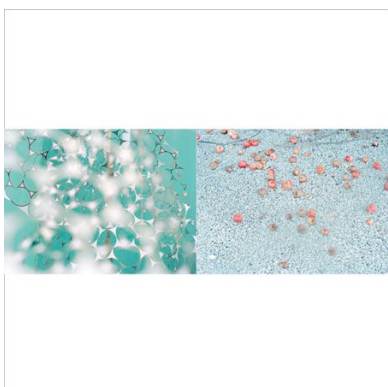
【展示作品】



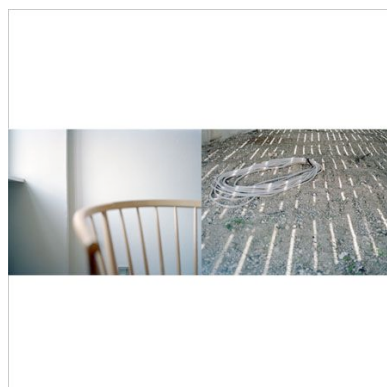
南條敏之「suns-43」
Cプリント 89×60cm 2009



南條敏之「suns-44」
Cプリント 89×60cm 2009



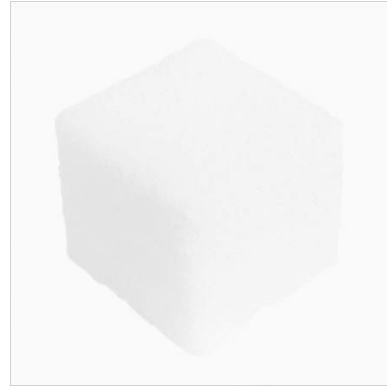
岡聖子「Her/story」
インクジェットプリント 45×45cm 2008



岡聖子「Her/story」
インクジェットプリント 35×35cm 2008



田中朝子「saucer/cup」
ゼラチンシルバープリント 60×60cm 2002



田中朝子「blanc(s)」
ゼラチンシルバープリント 60×60cm 2001

【オープニングレセプション関連イベント】

舞踏と音楽による即興パフォーマンス公演

日時：2009年10月24日（土） 17:00～

会場：Gallery Hyun

出演者：ダンサー＝雫境、亞弥、板垣あすか
音楽＝ノブナガケン、スコット・ジョーダン

雫境（ダケイ） プロフィール

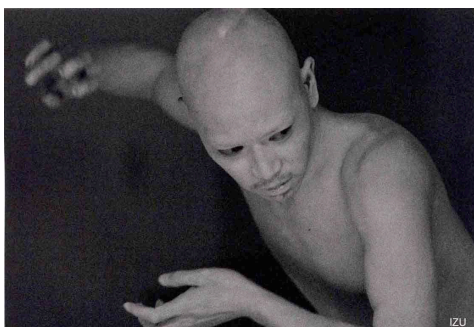
ダンサー／演出家／舞踏ユニット「雫 SHIZUKU」主宰。

2000年、東京芸術大学大学院美術研究科博士課程修了。

1998年に「舞踏工房・若衆」の作品に初めて参加、以降「若衆」の全ての公演に参加する。

2000年、自身のユニット「雫 SHIZUKU」の旗揚げ公演をマドリードにて行う。

国内外で数多くの公演やワークショップを行い、各地のダンスフェスティバルにも多数参加している。



※10月21日、22日にも同会場（Gallery Hyun）にて、雫境ほかによる舞踏と音楽の即興パフォーマンス「即興 二夜に舞う」が開催されます。